



今井鉱業博物館長が院内銀山異人館で講演



院内銀山異人館



講演の様子

平成30年4月27日(金)今井 忠男鉱業博物館長が、湯沢市院内銀山異人館30周年記念企画の一環で、「院内銀山のはじまり」と題して講演を行いました。

講演で今井館長は、院内銀山の銀の生産高について、開発初期にあたる1600年代前半の銀生産高は2,000貫(7.5トン)を超えていたと推定される、と話しました。その後衰退した時期が続いたが、天保年間(1831年~1845年)と明治期の近代化が進んだ頃に、生産量が増えて盛況期を迎えた、と説明しました。

院内銀山の最初の開発時期については資料が残っておらず定かではないが、佐竹藩が秋田に移った後、慶長17年(1612年)には、梅津政景を院内銀山奉行として赴任させて開発が進められた、と話しました。

また、院内銀山の主要な坑道の構造が描かれた絵図、『「羽州雄勝郡院内銀山惣絵図」宝永4年(1707年)』を画像で紹介しました。その中でも特に、水抜きや運搬のために使われた坑道である「大切坑」(おおぎりこう)に着目しました。大切坑は全長が約4kmにも及ぶうえ銀山町まで約1.5kmもあるため、開発工事は大変困難だったと思われる、と話しました。

会場は80名の方で満たされ、参加者の皆さんは興味深げに聴講していました。質疑応答も活発に行われ、講演会は盛況のうちに終了しました。



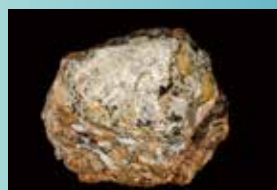
今井鉱業博物館長

鉱業博物館で見られる 院内銀山の標本・資料

当館では、院内銀山に関する鉱物標本や絵図を見ることができます。

1階展示室では、院内銀山産の銀鉱・濃紅銀鉱・脆銀鉱(ぜいぎんこう)などの標本を常設展示しています。

また、3階の「秋田の鉱山史」コーナーでは、院内銀山に関する資料、『院内銀山鋪岡(しきおか)略絵図』安政3年(1856)』を展示しています。院内銀山の鉱脈の採掘・運搬・地下水の汲み上げなど、坑内での作業の様子が細かく描かれています。



銀鉱石(院内銀山産)
1階展示室で展示しています



3階「秋田の鉱山史」コーナー

平成30年度 鉱業博物館業務体験

「鉱業博物館業務体験」は秋田大学生を対象とした教養教育科目です。昨年度は、子供向けイベント「ジュニアサイエンススクール」の準備や引率、博物館内や出張展示の標本の入れ替え、お客様アンケートの入力作業など、様々な業務を行いました。

平成30年5月1日(火)から、今年度の「鉱業博物館業務体験」が始まり、国際資源学部から13人、理工学部から3人が履修しました。始めに講堂で、



実習の内容や当館の成り立ち、沿革などについての説明を受けた後、展示室に移動して各コーナーのテーマや展示の工夫、さらにはいくつかの標本についての説明を聞きました。

2回目以降は、土器の整理、岩石試料のプレパラート作り、鉱山資料の入力作業、裏面で紹介するNHKラジオ番組での広報など、多様な内容の実習を行っています。



鉱業博物館サイエンスボランティア意見交換会



活発に意見が交わされました

平成30年4月3日(火)、鉱業博物館サイエンスボランティア意見交換会が行われました。意見交換会は、日頃当館の運営のサポートをしているサイエンスボランティア(以下、SV)の皆さんから、当館に関する意見や提案を聞くために毎年開催しているものです。

始めに、今井 忠男 鉱業博物館長が、平成29年度に行われた活動を振り返り、「鉱業博物館ボランティア研修プログラム」や「鉱業博物館ガイド養成プログラム」の改善点について話しました。SVの皆さんからは、鉱物の勉強用にお勧めの書籍の紹介や、博物館にある図書をもっと利用しやすくしてほしい、という要望がありました。また、過去に開催した特別展のパネルを案内時の解説にもっと活用してはどうか、という提案がありました。

日頃、ボランティア活動を通じて感じていることについての率直な意見が多く出され、充実した意見交換会となりました。



今井 忠男 鉱業博物館長



多くの方にご参加いただきました

NHKラジオ公開生放送で 鉱業博物館の魅力を伝えました

平成30年5月17日(木)秋田大学手形キャンパス内の60周年記念ホールで、NHKラジオ「旅ラジ!」の公開生放送が行われました。

番組内では当館についても取り上げられ、鉱業博物館業務体験履修生が、当館には年間約8千人の方が来館しており、学生だけでなく一般の方も入館できる開かれた博物館であることをアピールしました。また、所蔵している標本は約2万点で、全国有数の標本数を誇る話し、自分が実習で見学者の案内をする時は、これらの魅力や、鉱山とともに発展した秋田の歴史を伝えたい、と結びました。



当館を紹介中!



来場者は50名を超えました

紹介されたポンピングユニットについて



ポンピングユニットと圧力調整弁

屋外に常設展示しています

ポンピングユニット

番組では、秋田市内に現存するポンピングユニットが紹介されました。ポンピングユニットは、油・ガスを地上に汲み上げる装置です。地上のユニットが坑内のポンプを駆動します。秋田市の八橋油田では、ポンピングによって原油、天然ガスが今でも汲み上げられています。国内では大変珍しい風景です。

圧力調整弁

地下の坑井から生産される原油・天然ガスは、初期には油・ガス自身の圧力によって地上へ導かれます。この圧力は様々で、高い圧力を持った原油・天然ガスを安全にコントロールするため、この装置を設置して流量の調整を行います。形状から、「クリスマスツリー」と呼ばれています。

博物館の桜 今年も咲き誇りました

鉱業博物館敷地内の桜並木は、お花見スポットとして地域の方に親しまれています。今年は4月23日頃満開になりました。坂の途中にある展望台から鑑賞したり、写真撮影をしたりする人の姿が見られました。



平成30年4月23日撮影

鉱業博物館無料開放予定

7月28日(土)・29日(日)

秋田大学オープンキャンパスにあわせて無料開放いたします

ご来館をお待ちしています!